

新たな「節目」と「つながり」

金沢大学教育学部附属中学校

校長 石村 宇佐一

新しい学習指導要領が「生きる力」の育成を目指し、スタートしてから3年になります。学習指導要領のねらいは、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に「生きる力」を育成することです。文部科学省の「学びの進め」や中央教育審議会の答申では、「生きる力」を知の側面から捉えた「確かな学力」の育成に取り組むことの必要性を述べています。

これを受け、本校では、平成14年度より2年間、「21世紀を担う生徒の育成を目指して」という研究主題の下、「確かな学力」を生徒に付けるための方策を模索しつつ、実践研究を行ってまいりました。その2年間の成果を受け、平成16年度は、副題として「発達段階を見据えた「確かな学力」の探究」を掲げました。「確かな学力」を育成していく上で、生徒の発達段階に応じて、各教科の学習内容や教材配列、題材・課題の与え方や指導方法が適切に機能しているか、その一端ではあるが、各教科の授業実践でみることにしました。

学びには、発達段階に応じた節目があります。子供を取り巻く環境の急激な変化にともない、生徒の学びの節目と教師が用意しているシラバスの節目の間にある整合性が、多少揺らいでいると考えられます。学びの節目とつながりを授業の中で意識的に捉えてみました。平成16年8月10日付けで、川村建夫文部科学大臣から出された「義務教育の改革案」があります。その中にある「義務教育制度の弾力化」が実施され、地方が独自に学校制度の区切りを設定するとすれば、その根拠の一つが現在の「生徒の発達段階に応じて」ということになりましょう。本校の研究がそれに備える可能性があります。それぞれの研究につきまして、最大限の努力をいたしてまいりましたが、なお、不備の点が多くあろうかと存じます。教育・研究の質的向上のためにも、皆様の忌憚のないご教示、ご指導をいただければ幸いです。

なお、本校教育研究発表会に際しまして、東京家政学院筑波女子大学（2005年4月から改称、筑波学院大学）学長の門脇厚司先生に『非社会化時代の教育を考える』という演題でご講演をいただきます。先生の著書『子供の社会力』のなかで、人と人をつなぐ力社会をつくっていく力を表す「社会力」を提案し、広く注目を集めてまいりました。私どもにとりまして、今後教育研究の前進に大きな指針をいただけるものと深く感謝しています。

終わりにになりましたが、教育研究発表会の開催にあたり、ご支援をいただきました石川県教育委員会、金沢市教育委員会をはじめ、ご指導とご助言をいただいた多くの関係各位ならびに、金沢大学教育学部の先生に厚くお礼申し上げます。

平成16年11月19日